

運動器検診関係者各位

運動器検診家庭調査票（東京都モデル）のご案内

日頃より運動器検診にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

ポストコロナにおける児童の運動器機能への影響を検証するためにも運動器検診は重要な健診項目となります。側弯症を含む運動器機能不全ならびに運動器障害の早期発見・予防を目的に導入された運動器検診も7年が経過し、日本臨床整形外科学会ならびに東京都臨床整形外科医会（以下、TCOA）においてもデータを蓄積・分析し、多くの学会報告からも一定の成果をあげていると評価しています。

しかしながら、さまざまな問題点も指摘されており、特に家庭調査票が各自治体において統一されていないことが問題となっていました。この度 TCOA では、東京都モデルとなる家庭調査票を作成しました。

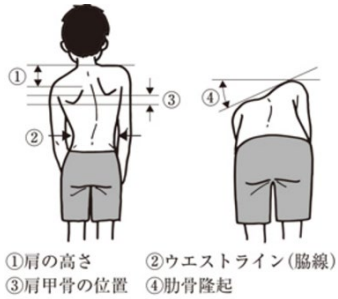
また、運動器検診二次検診医療機関（整形外科）への配布資料として、「しゃがみ込みに対する運動指導箋」も同封させていただきました。（別紙1）

是非この機会に、「TCOA 版家庭調査票」と「しゃがみ込みに対する運動指導箋」をご活用いただければ幸いです。

東京都臨床整形外科医会
会長 森山正敏

【参考資料】

東京都臨床整形外科医会では「東京都の学校運動器検診の現状」を各自治体（都内52医師会）ならびに東京都臨床整形外科医会会員へアンケート調査を行ない、各自治体における検診方法の違いを検証しました。37件の回答結果は、学校運動器検診を実際に行なっているのは学校医（内科・小児科医）が35件、整形外科医が2件。家庭調査票の作成者に整形外科医が関わっているのは18件、関わっていないのが19件（学校医7件、行政6件、養護教諭3件、不明2件、未作成1件）でした。また、各自治体から提出された28件の保健調査票の項目に関しては、側弯についてのイラストありが24件、なしが3件でした。しゃがみ込みの方法については、踵の接地の指示がないが8件、片足立ちについては、秒数（5秒）の指示がないが7件、四肢の痛みについては、その項目がないが6件など家庭調査票の内容にばらつきを認めました。



	背骨が曲がっている			
	片脚立ちが5秒以上できない			
	踵をつけてしゃがみこみができない			
	後屈時、腰に痛みがある			

【側弯症イラスト】

【イラストのない家庭調査票】

殆どの自治体において、学校医が内科検診や側弯症検診と同時に運動器検診を行っており、限られた時間の中で適切に運動器障害や運動器機能不全の有無を判断するためには、生徒の保護者が事前にチェックする家庭調査票の情報が非常に重要となります。しかしながら、保護者がその問題に気づきやすいように絵を挿入したり、説明を分かりやすくしたりするなどの工夫がなされていない自治体もあり、整形外科医は運動器検診後のフォローだけでなく、家庭調査票の作成に携わったり、検診の方法や目的を学校医に伝えたりなど、積極的に関わっていく必要があると考えられました。

(第 35 回日本臨床整形外科学会学術集会にて発表)

※東京都臨床整形外科医会 (TCOA) は昭和 43 年に整形外科開業の集会として発足し、現在は都内の整形外科開業医及び勤務医が所属している、会員数約 400 名の整形外科医の集まりです。昭和 49 年には日本臨床整形外科学会 (JCOA) が発足し、会員数約 6000 名の全国組織に発展しました。

TCOA は高水準の医療を患者様に提供することを目的として、会員の学術の向上を計るために、年に 10 回の研修会で 26 講座を主催しています。年 4 回の TCOA ニュース発行、年 1 回の会誌発行、各種委員会 (総務・学術・共同研究・保険・広報・IT・運動器検診委員会等) の開催、全国保険審査委員会への参加、『骨と関節の日』の都民公開講座開催、東京都各科医会協議会への参加等もおこなっています。